

長崎市から大型獣脚類（肉食恐竜）の化石が発見されました

福井県立恐竜博物館と長崎市教育委員会は、長崎半島西海岸（白亜紀後期の三ツ瀬層：約8400 万年前）から獣脚類（肉食恐竜）の化石を発見しました。

1 発見化石 大型肉食恐竜の歯（2点）

(1) 歯根側半部（別紙1、図1）

歯冠の高さ35.4 mm、幅26.8 mm、厚さ11.2 mm

完全な歯の歯根側の約半分にあたり（完全であれば6 cmほどの歯と推定）

歯の前後には特徴となる鋸歯も保存

(2) 歯冠の一部（別紙1、図2）

高さ34.2 mm、幅13.6 mm

※いずれも化石の不完全さから、獣脚類の種類を特定することは困難だが、ハドロサウルス科の恐竜（草食恐竜）に続いて、大型の肉食の恐竜がかつての長崎半島周辺に生息していたことを示す。

2 発見場所 長崎市の長崎半島西海岸

- ### 3 特記事項 国内における肉食性の獣脚類化石は、岩手、福島、群馬、富山、石川、岐阜、福井、和歌山、兵庫、福岡、熊本、鹿児島各県から報告があり、歯の化石からわかることが多い。長崎の歯の化石（図1）はその中でも大きく、全長7 mを超える大型獣脚類のもの（別紙2）と考えられる。
- 福井県立恐竜博物館と長崎市教育委員会は昨年度から、三ツ瀬層から産出する白亜紀後期の脊椎動物化石の共同研究事業を行っている。本年度から野外での試掘調査も行い、白亜紀の脊椎動物化石のさらなる収集を行う計画がある。昨年度は以前に収集された化石を含む岩石のクリーニング（化石周囲の岩石を取り除く作業）が福井県立恐竜博物館で行われ、獣脚類の化石の他に、新たに54点（総計57標本／平成25年3月末時点）の標本が処置された。これらには鑑定が困難な断片的な骨や、鑑定にはまだ時間を要する化石も含まれるが、三ツ瀬層の脊椎動物化石の多様性を示す重要な資料である。



図1 獣脚類の歯：歯根側の約半分（画像提供：長崎市教育委員会/福井県立恐竜博物館）



図2 獣脚類の歯：歯冠の一部（画像提供：長崎市教育委員会/福井県立恐竜博物館）